山形保険医新聞

Yamagata medical practitioners newspaper

発行
山形県保険医協会
〒990-0043 山形市本町二丁目1の2フコク生命ビル
電話 023（642）2838
FAX 023（642）2839
購読料 〒共1ヵ月 500円
印刷 コロニー印刷
第529号

12月号 TOPICS

2面…厚労省・県選出国会議員へ要請
3面…訪問診療時のオン資確認
4面・5面…定期総会協賛広告
6面…個別指導の指摘事項（歯科）
7面…つるさんのお店探訪
8面…気になるワインの話

第48回定期総会

いのちと健康を守る より良い医療提供体制の実現を

協会は11月18日、山形市の大手門パルズで第48回定期総会を開催した。開会にあたり挨拶に立った中島幸裕理事長は、昨年2月に始まったロシアによるウクライナ侵攻や、今年10月半ばに勃発したイスラエルとハマスの戦争にも触れ、「エネルギー価格や物価の高騰はとどまることを知らず、国民、県民の生活は一向に上向く気配がない。医療界においても、オンライン資格確認システム導入・オンライン請求義務化により、閉院・廃院を選択する医療機関が増加しており、地域医療の崩壊が危惧される。健康保険証廃止問題をめぐっても、保険証廃止によって国民のいのちと健康が脅かされることを懸念せざるを得ない」と述べた。来年の診療報酬改定では、財務省がマイナス改定を目論んでおり、「医療機関で働く職員の生活を守っていけるのかが今後の重要な課題だ」と危機感を示した。

そのような中、山形県内では今年度、県内すべての市町村で18歳までの子どもに対し何らかの医療費助成が実施されることになり、中島理事長は、「これまでの協会の運動の積み重ねによるものである。引き続き医療制度の充実を求め取り組みを継続していきたい」と述べた。

挨拶をする中島幸裕理事長

活動報告と方針提案

活動報告と方針

第1号議案では、鈴木康洋副理事長が22年度の活動の特徴と23年度の活動方針を提案し全会一致で承認された。

保険証廃止の中止、オンライン資格確認システム導入義務化、レセプトオンライン請求義務化撤回の取り組みでは、会員の先生の協力のもと数多く寄せられた署名を、首相、厚労大臣、デジタル大臣に提出した。また、会員医療機関を対象に、「マイナ保険証によるオンライン資格確認トラブルアンケート調査」を行い、調査結果を県に提出。山形新聞をはじめ複数の新聞で報道された。さらに、レセプトのオンライン請求義務化について、県選出国会議員に要請書を提出し、協会の要望を受けた芳賀道也参議院議員が国会質問に立ったことが報告された。

電気料金等の高騰に伴う医療機関への支援を求める取り組みでは、会員医療機関と県内67の全病院に対して行った、「電気料金等光熱費高騰、入院・食材料費値上げによる医療機関影響調査」の結果をもとに、国会議員や県議会議員と懇談。さらに平山雅之県副知事との懇談も実現した。平山副知事への要請・懇談の模様は、NHK、TUY、山形新聞、読売新聞で報道され、その後、医療機関への支援事業が実現し協会の取り組みが実を結んだ。

そのほか、受診状況アンケート調査の取り組み、補聴器購入費補助を求める取り組みなども報告された。全国的には会員数が減少する中、新規開業医への訪問、Webによる研修や講演、保健所の立入検査や個別指導対策、勤務医の先生への働きかけなどにより25名の新会員を迎え、5年連続過去最高の会員数を更新。鈴木副理事長は「今後も役職員一丸となって、会員の先生のお力をお借りしながら、会員増に取り組んでいく」と締めくくった。

記念講演講師の三條典男先生

ワインを試飲しながらの記念講演会

決算と予算

22年度決算報告、小川裕監事の監査報告の後、23年度予算が提案され、決算、予算ともに全会一致で承認された。

決議

田中雄二理事より「いのちと健康を守り、患者にとってより良い医療を提供できる社会の実現を求める決議」が提案され、討議となった。特に、健康保険証の存続を求めることについては、「医療DXを否定することになるのではないか」という意見が出され、活発な議論が行われた。古沢信之理事が、医療のDX化を否定するものではなく、医療機関・患者に選択権を与えない、拙速な健康保険証の廃止に反対するという理事会での議論の到達点を説明。反対意見はあったものの拍手で決議は採択された。

SHINSEN MUSICAによる生演奏

記念企画「ちょっと気になるワインのタベ」

続いて、当紙で大好評連載中の「気になるワインの話」の筆者、三條典男先生による記念講演を開催。新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したことを受け、参加者を会員と家族、会員医療機関職員に限定し4年ぶりに企画。三條先生お薦めのワインを試飲しながら、ワインの魅力やマナー、よりおいしくワインを飲む方法などを聴講し、参加者から多くの質問も出された。音楽ユニットSHINSEN MUSICAによる生演奏に耳を傾けながら、和やかに懇親を深めた。

（記念企画は2面に掲載）

つばさ

ついにヨハネの黙示録の時代がやって来たのか？ハマスのイスラエル急襲から一カ月が過ぎた日に筆を執った。◆ユダヤ歴には7年に一度「シュミータ」という安息年がある。その年は、リーマン・ショックなどの金融危機が起きるとされている。シュミータが7回繰り返された翌年、50年に一度おとずれる大恩赦の年が「ヨベルの年」である。ヨベルの年から7年間でグレートリセットが起こると言われている。第四次中東戦争から半世紀、昨年の9月26日からがヨベルの年だ。◆黙示録では、ロシア、トルコ、イランがイスラエルへ攻め込み、最終戦争「エゼキエル戦争」が起きるとされている。この戦争によって人類が滅亡するのか、平和が訪れるのか、人類の悔い改め次第ということか。◆それにしても、異常気象、自然災害、金融危機、食料危機、パンデミック、詐欺、財務不正、暴動など、日々の日常ですら黙示録の世界に近づいているのではないかと感じる。どうもこれからの人類は楽観視できない。◆イスラエルのガザへの無差別攻撃は、弱者であろうが、子どもであろうが攻撃し残虐極まりない。日本はどう行動すべきか？ グローバルサウスはパレスチナ寄りだが、欧米とイスラエルとの狭間で日本のとるべき道は？ 行動は？（Y）